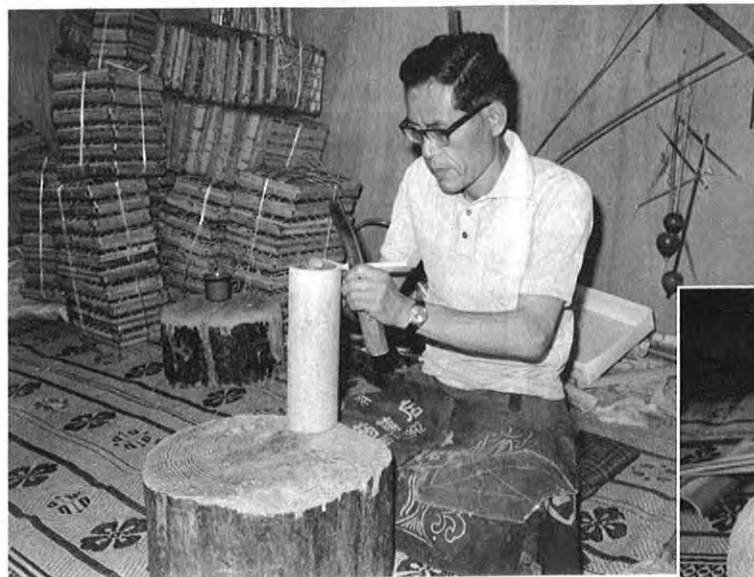


風土に根ざした伝

古来からの風土に根ざした勝れた文です。社会的に価値のある遺跡、ある昔から伝わる野趣に満ちた伝統工芸として伸ばすことも大変に意義のある

伝統工芸



▲工作中的の桑原健次郎さん。竹は桑原さんの手にかかり、その素朴さを残したまま右のような製品になります。



▲日奈久の竹細工

日奈久の竹細工 (八代市日奈久町)

日奈久の竹細工は明治に始まります。日奈久付近には竹林が多く良質の真竹、孟宗竹が群生していました。当時、大分県別府温泉で竹細工の美術籠がもてはやされており、日奈久温泉では別府から竹細工の職人を招いて指導にあたらせました。近年竹林がミカン園にかわり、また地味な仕事とあって、後継者もいなくなり、終戦時100世帯からあった竹細工店も、現在、専業は2店だけになっています。製品は竹を網の目に編んだもので、竹の素朴さと丈夫さがうけて、愛好家には深く浸透しています。特に、弁当や魚、トウフを入れる角籠は他地にほとんど類を見ないところから日奈久竹細工の特色となっています。



▲うす皮むきなど一部機械化されていますが、やはり手作業が主となり、伝統工芸品の味をだしています。

統文化を大切に

化伝統というものは大事にしたいものは文化の保存も大切なことですが、掘り起し、これをひとつの地域の産業ことです。

文化財

井寺古墳 (上益城郡嘉島町)

＝ 国指定史跡 ＝

彫刻や彩色で文様や絵画が描かれている古墳を装飾古墳と呼んでいます。

こうした古墳は県下に 103例ほどあります。ここにあげた井寺古墳もそのひとつで石室内の囲み石(石障)に、直弧文や同心円文、梯子形文などの幾何学的文様を線刻しその文様内を赤・白・青・緑の顔料によって彩色してあります。

これらの直線や円を組み合わせた不思議な文様は一体何を意味するものなのでしょうか。



▲井寺古墳石障の幾何学文様



▲石器の素材となった母岩

二子山遺跡

(菊池群西合志町)

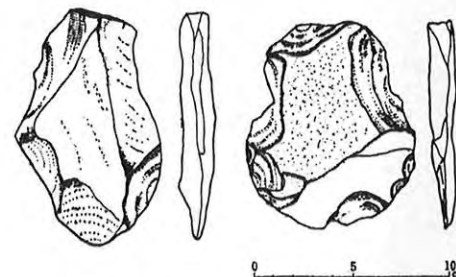
＝ 国指定史跡 ＝

この遺跡は菊池郡西合志町野々島の二子山と呼ばれる小高い丘にあります。

昭和六年、故坂本経堯氏が最初に発見し、多数の石材や石器が出土したことから石器製作跡参考地として注目を集めていたものです。

その後の町の教育委員会の調査の結果、岩をたたいて石器の素材をはぎ取った跡が残っている三群の母岩と、完成未完成の石器多数が見つかり約2haの全山が縄文後晩期ころ(2500年から3000年前)の石器製作跡であることがわかりました。

また、その石材は金峰山系の玄武岩質安山岩で、この遺跡で作ったとみられる石器はこの二子山を中心に半径15kmの範囲内で発見され当時の交易圏をほぼ復元することができました。



▲出土石器実測図